

## 伝統産業から文化ビジネスへ

今回は、京都における  
伝統産業のグローバル化とイノベーションの  
取り組みをご紹介します。

伝統産業は地域経済の担い手であったが、バブル崩壊後の1990年代をピークに衰退傾向が続いている。京都には幅広い分野の伝統産業が集積しているが、文化庁の京都移転を前に、文化を起点として新たな付加価値を産みだし経済の好循環につなげることが課題となっている。

### 文化ビジネスとは

同志社ビジネススクールでは2007年に

「伝統産業グローバル革新塾」(以下、革新塾)を

立ち上げ伝統産業の若手を中心に実践的なビジネス教育が行われてきたが、そのコンセプトは「伝統産業から文化ビジネスへ」であった。革新塾を立ち上げた村山裕三教授によると「文化ビジネス」とは「伝統文化の芯となるところを見出し、現代に通ずるビジネスとして仕立て直す」ことだ。もちろん、現代に通ずるためにはビジネスはグローバルでありイノベティブ(革新的)でなければならない。



▲写真1 パリ「京都の赤展」の展示「糸そうめん」(写真提供 Marble.co)

## 伝統産業のグローバル化

られたプロの仕業であろう」ということだ。

伝統産業を文化ビジネスとしてグローバル化するためには、伝統産業のどの要素が海外市場で通用するかを見極めることが大切だ。革新塾では2008年の「サンフランシスコ国際ギフトフェア」へ手描友禅のタンブラーやマグカップなど革新塾で開発した製品を出展したが結果は思わしくなかった。それは、展示にコンセプトがなく製品を並べただけの物産展に終わったからだ。そこで、2009年には西陣織の赤、京友禅の赤、清水焼の赤など京都の赤をテーマにした「京都の赤展」をパリで開催した。そのなかで、パリの人々に鮮烈な印象を与えたのは様々な赤に染められた西陣織の縦糸を天井からつるした「糸そうめん」の展示で、展示品の一部が切り取られていた。おそらく、「西陣織の糸に魅せられたプロの仕業であろう」ということだ。

西陣織でグローバル化へ舵を切ったのが(株)細尾である。(株)細尾は元禄元年に創業した西陣織のメーカーで、11代目当主の細尾真生氏は商社マンとしてミラノで勤務した経験があり、海外から西陣をみる視点をもっていた。(株)細尾も海外での出展のスタートは順調とはいえなかったが、海外でも通用する「伝統文化の芯」となったのは、細い金箔や銀箔を織り込む西陣織の技術であった。2008年にパリで開催された「感性ジャパン デザイン エキシビション」に出品した帯がニューヨークの巡回展で世界的な建築家ピーター・マリノ氏の目にとまり 크리스チャン・ディオールの店舗用インテリアに使われることになった。ピーター・マリノ氏が着目したのは西陣織の帯の意匠ではなく西陣織の素材としての魅力だった。その後もシャネル、ルイ・ヴィトンなど



▲写真2 京都の伝統工芸とのコラボレーションによる「響筒」(写真提供:パナソニック株式会社)

からインテリア用途での受注が広がり、さらにインテリアに留まらずファッションやアートなどの世界にも及んでいく。

もう一つグローバル化に必要なのが織機の内儀バージョンである。西陣織の帯の幅は32センチであるが、インテリアで使うためには狭すぎる。このため、世界標準の150センチ幅で織れる織機が開発された。

## 伝統産業の内儀バージョン

伝統産業といっても生まれた時は先端産業で、その技術も革新されてきた。西陣織の歴史は平安時代まで遡るが、明治初期には職人をフランスのリヨンに派遣して紋紙（紋の模様）に従って穴をあけたパンチカードを用いて模様を織り出すジャカード織機が導入された。これにより、

多彩な製品を安定的に供給できるようになり、その後、紋紙は電子データ化され西陣独自のフォーマットとして定着していく。

内儀バージョンとは、日本では技術革新と理解されているが、もともと意味するところは技術革新に留まらず新しい組み合わせ「新結合」により新たな価値を生み出すことである。

エレクトロニクスと京都の伝統工芸の技が結合すれば何が起ころうか。パナソニック（株）では2015年から京都の伝統産業とのオープンバージョン「Kyoto KADEN Lab.（京都家電ラボ）」の取り組みが行われている。京都の伝統工芸の後継者によるクリエイティブユニット「GOON」との共同開発により生まれたのが「人の記憶や五感に響く未来の家電」で、世界最大規模の家具見本市「ミラノサローネ2017」に出展し「ベストストーリーテリング

賞」を受賞、そのなかの一つ「響筒」は商品化されることとなった。「響筒」は明治8年創業の手作り茶筒の老舗「開化堂」の茶筒を使ったモバイルスピーカーで、テレビの情報番組カンパリア宮殿でも紹介された。

「GOON」は伝統工芸を斜陽産業から成長産業に生まれ変わらせることを目的として（株）細尾の12代目細尾真孝氏や開化堂6代目の八木隆裕氏など京都の伝統工芸の後継者6名で結成された。「GOON」とは先人から受け継いだ技と素材への「ご恩」と未来へ向かって進んでいく「Going on」にちなんで命名されたという。

こうした伝統産業のグローバル化と内儀バージョンの取り組みにより「伝統産業から文化ビジネスへ」の動きは広がりをみせている。

（文責 京都総合経済研究所 森秀人）

# 日本全国 県境・地域を越えた 「様々なビジネスニーズ」にお応えします！

このようなビジネスシーンでお困りではありませんか？



## 全国の地銀9行連携 「地域再生・活性化ネットワーク」について

経営基盤・営業エリアが異なる地銀9行が、様々な情報・ネットワークを相互に活用することで、地域経済の再生および活性化を図るために構築した広域連携です。

県境・地域を超えて活躍する(今後検討される)お客さまのビジネスニーズ等に対して、全国の各エリアをカバーする地域金融機関が連携・協力して対応していきます。

- ①複数の地方銀行による資金供給(シンジケートローン・協調融資等)
- ②他エリアの地方銀行のネットワーク情報を活用して、M&Aや事業承継における相手方情報をご提供
- ③ビジネスマッチング業務にかかる他エリアの地方銀行のお取引先等をご紹介します



- 【注意事項】**
- 本ネットワークは、協定書を締結した地方銀行9行の連携・協力に基づき運営されています。ご利用にあたり、お客さまのご要望・ニーズなど、必ずしもご期待にそえない場合がありますのでご了承ください。(個別具体的なソリューションのご提供を確約するものではありません。)
  - 本ネットワークのご利用を希望される場合は、お近くの取引銀行窓口までお気軽にご相談ください。(ご相談は無料です、但し、個別具体的なソリューションのご提供にあたっては、各銀行所定の手数料等がかかる場合があります。)